

# 3社アライアンス訓練評価シート

評価 A:良好  
 B:一部に改善事項が見られるが、概ね良好  
 C:一層の努力が必要  
 -:確認できず

評価場所:即応センター

評価者(組織名):東京電力ホールディングス株式会社

評価事項 (ERCプラント班との情報共有に係る事項)	評価基準	評価結果	評価内容 (良好事例、改善事項等があれば記載願います)
1 事故・プラントの状況	(1)プラントの状況、新たな事象の発生、線量の状況、負傷者の発生等のイベント・現況について、必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報提供していること	A	◎新たな事象発生については、手書きの連絡メモにてタイムリーに情報が提供できていた。
	(2)事象進展中に、主要データの挙動の変化等を適切なタイミングで情報共有していること	A	◎SPDS画面をERCと共有することで、クリチカルパラメータをタイムリーに共有できていた。
	(3)状況を断片的では無く、適時に施設全体の状況を俯瞰した説明をしていること	A	◎DEC管理表(COP①)を使用してプラント全体の情報を共有できていた。
	(4)実動で実施している内部火災訓練に係る状況を積極的に情報提供していること。	A	◎火災区域を示したGAを使用して、火災発生場所を明確に説明できていた。
2 事故収束対応戦略	(1)事故の進展予測及びこれを踏まえた事故収束に向けた対応戦略について、必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報提供していること	B	◎COP⑤(戦略検討)を使用して戦略と戦術について説明できていた。 △9:58現在の2u1u-COP⑤(戦略検討:初動対応)は実発災時に初動段階でここまで整った情報を作成するのは難しいのではないかと。 △戦略を最初に説明したのは11:13頃の10:56現在の2u-COP⑤(戦略検討)であり、もう少し早いタイミングで戦略が説明できると良い。

## 3社アライアンス訓練評価シート

評価 A:良好  
 B:一部に改善事項が見られるが、概ね良好  
 C:一層の努力が必要  
 -:確認できず

評価事項 (ERCプラント班との情報共有に係る事項)		評価基準	評価結果	評価内容 (良好事例、改善事項等があれば記載願います)
3	戦略の進捗状況	(1)事故収束に向けた対応戦略の進捗状況について、必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報提供していること	A	◎戦略の進捗状況が連絡メモを用いてタイムリーに情報が提供されていた。
4	ERCへの説明時の配慮	(1)プラント状況が悪化した場合に備え、事前に見込まれる戦略については運転手順書を用いるなど積極的に説明していること	A	◎SOP等を用いて今後の手順上の対応が説明できていた。
		(2)SPDS画面で主要パラメータに急激な変化が見られた場合は、ERC対応ブース内で考えられる原因をERCに速やかに説明し、その上で正確な原因は発電所からの情報をERC対応ブース内で整理した後、説明していること	A	◎13:20のRCICTリップなど、SPDSを用いてタイムリーに情報が発信できていた。
		(3)1, 2号機の情報が輻輳する状況下において、1, 2号機どちらの情報か整理した上で説明していること(昨年度訓練課題)	A	◎1号と2号の発話者を変え、COPに号機を記載することで号機の取り違いは無かった。 △連絡メモに号機のチェックが無いときがあった。(15:12頃の15:05連絡メモ)

## 3社アライアンス訓練評価シート

評価 A:良好  
 B:一部に改善事項が見られるが、概ね良好  
 C:一層の努力が必要  
 -:確認できず

評価事項 (ERCプラント班との情報共有に係る事項)		評価基準	評価結果	評価内容 (良好事例、改善事項等があれば記載願います)
5	迅速な通報・連絡の実施	(1) EALの判断根拠について、テレビ会議システム等で原子力事業者防災業務計画に基づき、具体的に定量的に説明していること	A	◎EAL判断について、ERC備付資料を使用して説明を行っていた。
		(2) 10条確認/15条認定会議において、幹部社員等の責任ある者が速やかに対応し、発生事象・進展予測・事故収束対応の説明を適切にしていること	A	◎10条・15条会議ともにEAL判断後、幹部が速やかに参集し、会議が開催できた。 △10条確認会議での事業者からの補足説明が約2分であったため、もう少し端的にまとめると良いのではないか。
6	情報共有のためのツール等の活用	(1) テレビ会議システム、電話、書画装置など通信機器の操作に習熟していること	A	◎書画とSPDSの切り替えをスムーズに行っていた。
		(2) プラント情報表示システム(ERSS、SPDS等)を使用してプラントパラメータ(プラント状態やEALの説明、予測進展など)等の情報共有をしていること	A	◎SPDSを画面共有にてERC側にも映し、タイムリーに情報を共有していた。
		(3) プラント情報表示システムのトレンドを活用した情報共有(傾向・変化・進展)を行っていること	A	◎原子炉水位やCAMS放射線量など、SPDSのトレンド画面を適宜活用していた。

## 3社アライアンス訓練評価シート

評価 A:良好  
 B:一部に改善事項が見られるが、概ね良好  
 C:一層の努力が必要  
 -:確認できず

評価事項 (ERCプラント班との情報共有に係る事項)		評価基準	評価結果	評価内容 (良好事例、改善事項等があれば記載願います)
6	情報共有のためのツール等の活用 <続き>	(4) ERCリエゾンが情報共有に係る即応センターの補助を行っていること	-	-
		(5) COPをERCプラント班に共有し、活用していること	A	◎ERCからCOPについて催促されることがなかったため、適宜共有されていたものと推察。
		(6) ERC備付け資料を活用して説明していること	A	◎ERC備付け資料を適宜活用し、ページ番号についても発話していた。
7	炉心損傷状況説明	(1) SOP導入条件、炉心損傷判断に係る情報を事故時操作手順(炉心損傷後)を用いて説明していること	A	◎SOP導入条件やベントの基準について、手順書のフローを用いて説明を行っていた。
8	PCVベント準備状況説明	(1) 中長期戦略にてPCVベント準備の状況を説明していること	B	◎中長期戦略についてCOP⑤を用いて説明を行っていた △COPと言うよりも、レポートのような形式になっていて、わかりやすさの観点から改善の余地があるのではないか。(文章形式で記載されている箇所が見られる)

## 3社アライアンス訓練評価シート

### 【気付き事項, その他】

#### <良好事例>

- ・D/Gのトリップ原因について, 比率作動であることから, 復旧に長期化することまで説明できていた。
- ・9:58現在の2u1u-COP⑤(戦略検討:初動対応)は情報量としては申し分がない。
- ・前半は空き時間を利用して丁寧に説明していた。
- ・戦術の進捗状況がきちんと説明できていた
- ・火災の状況についてタイムリーに共有できていた。
- ・モバイル設備一覧は使用可能な設備が一目でわかるのでとてもよい。
- ・ターゲットが変更になった時に積極的に発話していた(15:50頃の炉心損傷回避が困難となり, RPV破損回避をターゲットに変更)
- ・電源復旧により, どの負荷を復旧させるのかセットで説明していた。
- ・炉心損傷のタイミングでモニタリングポストの指示値についても説明を行っていた。

#### <気付き事例>

- ・後半で説明の空き時間が発生する 때가あった。(ERC振り返りでも同様のコメントあり)
- ・書画が短時間で戻されてしまうことがあるため, 戻す前にERCの確認を取った方がよい。
- ・中長期戦略については, 説明するタイミングと内容が各社共通の課題。(3アラのテーマにしても良いのでは)